

大豆づくり情報

第 3 号

令和 7 年 8 月 2 6 日
村山 総合 支 庁
農 業 技 術 普 及 課
TEL : 023-621-8295

マメシクイガの発生は多い予報！

適期の病害虫防除と雑草対策で収量・品質を確保しよう！

1 病害虫の適期防除

- マメシクイガによる食害や紫斑粒は、収量や品質に大きく影響します。適期を逃さずに防除を実施しましょう。
- マメシクイガは、8月下旬から9月上旬にかけて産卵最盛期となります。薬剤散布による防除適期は産卵最盛期となるため、**8月下旬（8月25日頃）と9月上旬（1回目散布の10日後）の2回防除が基本**です。
- 紫斑病は、開花期から40日程度が感染時期となります。また、登熟期間の気温が25℃以上で多湿条件の場合に感染が助長されます。防除適期は**開花25～30日後**であり、**1回目のマメシクイガと同時防除が可能**です。
- 防除の際は、莢まで薬剤が付着するように、丁寧に散布しましょう。



マメシクイガによる食害



紫斑病（罹病子実）

2 雑草対策の徹底

- 大型雑草や帰化アサガオ類を残したまま収穫すると、汚損粒の発生に繋がり、品質低下の原因になります。**雑草が結実する前に抜き取り、適切に処分**しましょう。
- 特に、帰化アサガオ類などの難防除雑草は、翌年に種子を残さないことが重要です。圃場を確認し、発生を確認した場合は、速やかに抜き取りを行いましょう。
- 除草剤の畝間・株間処理を行う場合は、専用ノズルを使用し、大豆の本葉にかからないように注意しましょう。除草剤は使用基準を確認し、収穫前日数等に注意して適正に使用しましょう。

農作業事故と熱中症に要注意！声をかけ合い農作業事故を防止しましょう！

機械作業を中断する時は必ずエンジンを止めましょう！

こまめな**休憩**と**水分補給**、ゆとりを持った無理のない作業を！